生徒指導部通心（信）第 21 号（2025.12．11）

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～二人のノーベル賞受賞者の共通点とは・・・～

12 月１０日、二人の日本人学者がノーベル賞を受賞しました。一人はノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文（しもん）さん。もう一人はノーベル化学賞を受賞した北川進さん。**共に 74 歳。そして共に 50 年以上にわたる努力**が認められての受賞であった。では・・・どうぞ

坂口さんの受賞理由は**「制御性T細胞」**の発見。人間にはウィルスや細菌を攻撃する免疫細胞があるが、正常な細胞まで攻撃してしまう細胞がある。これを防ぐのが「制御性T細胞」。

坂口さんがこのブレーキ役の存在を突きつめたのが 1995 年。そこから 30 年たっての受賞である。

この「制御性T細胞」は**I 型糖尿病、ガン治療にも期待でき、実用化されると、花粉症や食物アレルギーにも効く**といわれている。

もう一人の受賞者、北川さんの受賞理由は**「多孔性金属錯体」**とよばれる新しい材料の開発。

少し難しいが、極小のジャングルジムのような多孔性材料は何もない空間に特定の気体だけを取り込み、貯蔵、濃縮することができる、という。この多孔性材料を使って空気から炭素や水素など資源になる物質を取り出せれば資源やエネルギー、環境などの問題の解決につながるという驚異的な研究開発である。

「地下資源をもたない国でも地球の恩恵を受けられる。空気のようなものを自由に使える技術があれば、**領土問題や紛争も起きない。**」と北川さんは語っている。

共に人類の未来に画期的な仕事をされたお二人が**一致して大事にしている言葉**がある。

それは・・・「運・鈍・根」である。

北川さんは**「『運』とは宝くじが当たるように神頼みするようなことではなく、真摯に学び、取り組むことで校運に近づく」**と教え子たちに伝えている。

坂口さんは、「長く不運な研究人生を過ごした。普通の人ならやめていた」という他の人の評に、**「私はうどんのような（太い）神経。不運とは思わなかった。」**と語っている。

坂口さんの座右の銘は**『一つ一つ』**だという。**直面する問題・課題に誠実に向き合い一つ一つ解決していく。その姿勢を 50 年続けていった**ところ大輪の花が咲いたのである。

北川さんの座右の銘は**『無用の用』（荘子）。人が役に立たないと振り向かないものの中に価値を見いだし、その価値を拓くべく 50 年歩み続けた**姿は坂口さんの姿と重なる。

拓くだけでは事はならない。それを突き進んでいくことで、道は完成するのである。「拓く進む」はあらゆる創造の原点である。

致知　１月号　特集「拓く進む」（致知出版社）より

このお二人が、若い研究者に伝えている言葉があります。

「研究というのは99%が失敗です。でもその失敗をどう解釈するかで**『次の一歩』**が決まる。」（坂口さん）

「幸運は**準備**された**心**に宿る」（北川さん）

「拓く」というと、未開の地を拓くというように、私たちはその対象を自分の『外』に向けて考えますが、安岡正篤（日本の易学者、哲学者、思想家で、多くの政治家・経営者に影響を与えた）さんは・・・

「一番の辺境（未開の地・低開発地）は実は・・・『自己』なのではないか」とおっしゃっています。

「社会の悪を責めたり、他人の責任を咎めたりすることは易いが、自己の心を吟味したり、自己の義務を尽くすことは実に難しい」と。・・・・・君たちへの言葉だと受け止めてみてください。